

スポーツ振興による地域経済の活性化 アリーナ（多目的屋内施設）整備の提言

令和6年4月



スポーツ振興委員会

提言要旨

松山市のＪＲ松山駅周辺地域では現在、国土交通省と愛媛県、松山市、ＪＲ四国が一体となり、整備事業が進められている。その主たるものは、ＪＲ松山駅付近連続立体交差事業、松山駅周辺土地区画整理事業、街路事業、路面電車延伸などである。

この整備事業に関しては、昨年１１月１７日、国土交通省と愛媛県、松山市により、「交通モード間の接続の強化」、「駅周辺地区の交通円滑化」、「移動利便性向上・回遊性の向上」、「防災機能の導入」、「官民連携」を柱とする「松山駅交通拠点機能強化整備方針」が発表され、具体策が示された。

さらに、この再開発においては、駅南側の車両基地と貨物駅区間は、伊予市と松前町の境に移設される。これに伴い、愛媛県は松山駅の貨物駅跡地を、また、松山市は車両基地跡地（約 9,250 ㎡）を取得する予定となっている。

松山市による跡地利用については、「松山駅周辺地区 車両基地跡地利用に関する基本構想」が策定されている。この中では、「文化創造」や「賑わい交流」、「防災」など、５つの基本機能を備えた施設整備の方向性が示されている。

今回の跡地利用は、松山市に残された数少ないまとまった土地の活用、しかも、松山の「陸の玄関」、重要な交通結節点に隣接しており、駅を降りて歩いてすぐという好立地の再開発となる。

愛媛経済同友会のスポーツ振興委員会では、愛媛県、松山市におけるプロスポーツの発展やアマチュアスポーツの普及・拡大、スポーツツーリズム等による地域経済の活性化などの観点から、これまで、先進地域の視察などを行ってきた。

具体的には、後ろに別掲しているように、Ｂリーグ（バスケットボール）に所属し、沖縄市をホームタウンとする琉球ゴールデンキングスのホームアリーナ「沖縄アリーナ」の視察、Ｂリーグの群馬グレインサンダースのホームアリーナである群馬県太田市の「OPEN HOUSE ARENA OTA」の視察、公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットリーグの島田慎二理事長（チェアマン）との意見交換などを行ってきた。

また、同じ中四国地域である岡山市（人口 71 万 6,000 人）では、地元経済団体等の強い要請もあり、新アリーナ（多目的屋内施設）の整備基本計画が策定されたのを受け、調査を実施した。愛媛県には、松山市をホームタウンとする愛媛オレンジバイキングスがあるが、岡山市にもトライフープ岡山というＢリーグチームがあり、5,000 席以上の客席の設置など、Ｂリーグ上位のホームアリーナ基準の見直しに対応するという背景もある。

こうした視察等の結果、松山市による「車両基地跡地利用の基本構想」も踏まえつつ、跡地には、バスケットボールコートやバレーボールコートをメインに、プロリーグやアマチュアによる試合が行えるほか、各種のイベントや展示会、市民レベルの発表会、コ

ンベンション、音楽コンサートなど、様々な用途に利用できるアリーナ（多目的屋内施設）の整備を提言したい。

以下、まずは、国土交通省及び愛媛県、松山市による「松山駅交通拠点機能強化整備方針」、松山市による「松山駅周辺地区 車両基地跡地利用に関する基本構想」の概要を示したうえで、愛媛経済同友会スポーツ振興委員会として提言を行う。

松山駅交通拠点機能強化整備方針

●賑わいや交流を生む駅まち空間の形成と一体的にバスターミナルを整備し、交通結節機能を強化

国土交通省や愛媛県、松山市によるこの整備方針では、「交通モードの接続（モダリティシフト）の強化」、「移動便利性・回遊性の向上」、「駅周辺地区の交通円滑化」、「防災機能の導入」、「官民連携」という5つのキーワードが示され、それぞれについての課題解決策が示されている。

特に、公共交通拠点としての機能強化では、バスターミナルの整備（松山バスタ構想）や大手町通りなどの機能強化による周辺道路の交通円滑化、高速バスの増便や次世代モビリティの導入などが盛り込まれている。

また、利便性・回遊性の面では、観光客などへの移動案内の充実や待合空間の確保など、地域の魅力発信に加えて、賑わい・憩いの空間の創出、回遊性向上による歩いて暮らせるまちづくりの推進などが挙げられている。

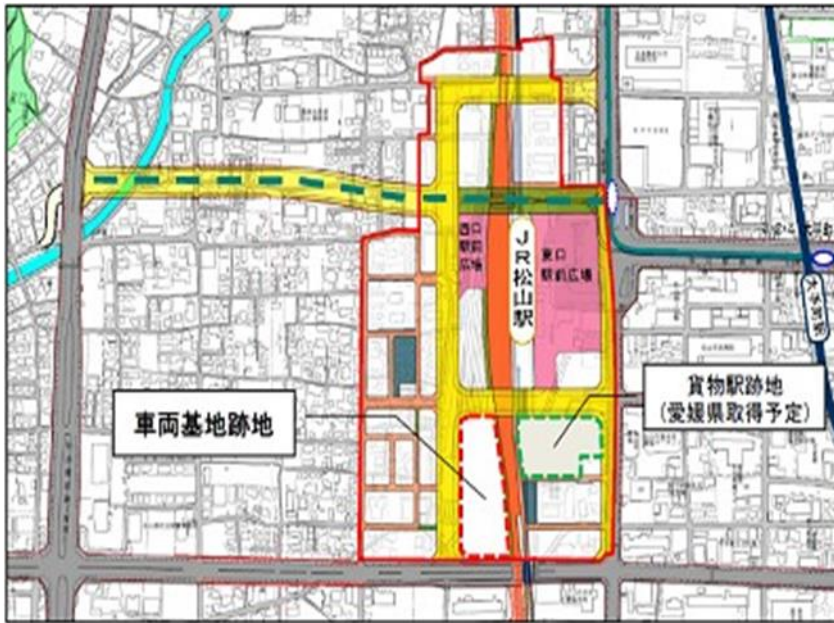
この公共交通拠点としての機能強化に加えて、J R松山駅周辺地区の整備では、松山市が駅南側の車両基地跡地、愛媛県が貨物駅跡地を取得する予定となっている。この点、松山市は、「車両基地跡地利用に関する基本構想」を発表しているので、以下、その概要に言及する。

松山駅車両基地跡地利用に関する基本構想

車両基地跡地は、J R松山駅付近連続立体交差事業、松山駅周辺土地区画整理事業、街路事業、路面電車延伸などにより、都市基盤が整備される市街地に位置する。その面積は約9,250㎡（南北約160m、北側の東西は約45m、南側の東西は約68m）、用途地域は商業地域、建蔽率は80%、容積率は500%である。

隣接する街路としては、北側及び西側に幅員30mの幹線道路が整備され、南側の千舟町空港線（幅員28m）は、鉄道高架後、現在の地下道部分（アンダーパス）が埋め戻される。また、東側は、幅員6mの高架側道が整備され、鉄道高架部は現在線より7m高くなる。

以下、基本構想の概要である。



＜基本理念＞

「まつやま情報文化交流拠点～だんだん つながる いいよかん・松山らしさのすべてはここから！～」

- ① 駅前立地を活かし、松山の情報文化を体験できる
- ② 独自の文化やお接待の心など、松山の「新しい顔」として「松山らしさ」を情報発信する
- ③ 子どもから高齢者まで、多様な活動や暮らしをサポートする
- ④ 気軽に集い憩える「交流スペース」で各機能を連結する

＜基本的な機能構成＞

4つの基本方針による拠点づくりのため、「文化創造」、「活動支援」、「賑わい交流」、「交通アクセス」、「防災」の5つの主要機能を備える。

また、それら主要機能を市民の文化活動と発表・交流の場となる「ホール」、緑あふれる憩いの「広場」など、世代を超えて集まることができる「交流スペース」で連結する。

＜主要機能＞

- ① 文化創造＝市民が気軽に多様な文化や知識に親しめるとともに、練習や創作など新たな松山文化を創造し、情報発信する機能
- ② 活動支援＝市民や市民活動団体による公益的活動や学習活動の活性化を推進するとともに、「子育て支援」や「高齢者のくつろぎ」など、お互いの暮らしを支え合う活動を支援する機能
- ③ 賑わい交流＝市民の日常的なくつろぎの場や、そこで繰り広げられる様々なイベントに参加して楽しむことができる賑わい交流機能

④ 交通アクセス＝広域交通結節点としての機能

⑤ 防災＝屋外避難広場など災害時の防災機能

＜交流スペース＞

5つの主要機能は、相互に連携して活用されることで、その性能が最大限発揮される。核となるのが「ホール」と「広場」。

◆ ホール

市民が行う様々な文化活動の鑑賞、発表、練習の場であり、「文化創造」や「活動支援」に欠かせない。また、イベント開催による周辺への賑わい、災害時の避難場所としての活用など、「賑わい交流」、「防災」の役割も担う。

◆ 広場

散策や休憩をしたりする憩いの場であり、イベント会場としても利用でき、「賑わい交流」には不可欠。災害時の避難場所の役割も担う。

アリーナ（多目的屋内施設）整備の提言

●エンターテインメントスポーツ及びスポーツツーリズムの可能性

市民とスポーツのかかわりにおいては、幅広い年齢の人が健康増進や趣味などの一環として、自ら運動を楽しむ、アマチュアチームを作り、仲間と同じ競技に参加する、いわゆる「するスポーツ」も大切である。

その一方、大谷翔平選手が活躍する米国のメジャーリーグやプロアメリカンフットボールリーグなどの「スポーツショー」はもちろん、日本でもサッカーのＪリーグに加えて、アリーナをホームとするバレーボールのＶリーグ、バスケットボールのＢリーグ、卓球のＴリーグなどの人気が高まっている。

映画が世界でブレイクしたアニメの「スラムダンク」が象徴するように、スポーツに対する関心、かかわり方が、「するスポーツ」から「観るスポーツ」へとシフトが進みつつある。プロスポーツは、「見せる」、「魅せる」ことで、観客を集めて感動を与え、地域を盛り上げ、その中から収益を上げていくという「エンターテインメントスポーツ」、すなわち、立派な「ビジネスコンテンツ」、「地域活性化のコンテンツ」として発展を続けている。

愛媛県においては、Ｊリーグの愛媛ＦＣがＪ３で優勝し、そこからＪ２への昇格を果たしたことで、熱心なサポーターの歓喜はもちろん、県民的な関心を呼び、ファン層が拡大している。

また、瀬戸内しまなみ海道のサイクリングが国際的に認知され、国内外から参加者が集まるサイクリング大会も開催される今治市では、サイクリングを含めてスポーツを軸に

したまちづくり、地域活性化の取組みが進められている。とりわけＪリーグ（Ｊ３）のＦＣ今治に関しては、官民の協力によって、ホームとなる里山ファームやサロン、ドッグラン等を備えた「今治里山スタジアム」が整備され、サッカーの試合以外にも楽しめる様々な機能、イベント等で盛り上がっている。さらに、今治明德学園の「ＦＣ今治高校里山校」の誕生も見ている。

このように、プロスポーツによる「エンターテインメントスポーツ」は、限られたファンのものではなく、地域の誇りとして多くの住民に認知され、愛され、まちづくりや地域活性化の起爆剤となっている。しかも、ホームである「今治里山スタジアム」がそうであるように、試合の舞台が様々な機能を有し、多目的に活用されることによって、多くの人が集まって賑わいを生み、経済波及効果をもたらすというメリットもある。

●松山駅の車両基地跡地へのアリーナ（多目的屋内施設）整備の有効性と期待される効果

ＪＲ松山駅は、陸路で松山に入る「陸の玄関口」であり、現在、鉄道の高架化に合わせ、土地区画整理事業や街路事業などが行われており、交通環境の改善に加えて、土地の高度利用が図られるほか、賑わいや交流を生む駅まち空間の形成が進むことになる。

松山駅周辺のポテンシャルは、これまでにないほどに高まることが期待されており、松山市にとっては、新しい魅力ある市民の賑わい交流スポットとなる。従って、このエリア内に、人が集まる動機付けとして、また、人が楽しめる器として、アリーナを整備し、Ｂリーグの愛媛オレンジバイキングスのホームアリーナとしての利用はもちろん、ＶリーグやＴリーグの全国、中四国レベルの試合、大会を誘致できれば、地域への波及効果は大きい。

当然、アリーナにおいては、プロスポーツだけではなく、「市民の施設」として、子どもたちから大人まで、アマチュアスポーツの試合、練習等に活用されることになる。また、アリーナは、ホールと比べるならば、より「多目的」な利用が可能な自由で使い勝手のよい空間であるため、スポーツだけではなく、各種のイベントや展示会、発表会、コンベンション、コンサートなど、多様な活用が可能で、それによって、年間の稼働率アップ、収益性の向上を図ることもできる。

そして、何より重要なのは、アリーナが立地するのが、愛媛県、松山市の「陸の玄関口」であり、駅から歩いてすぐにアリーナにアクセスできることである。アリーナで行われるプロスポーツや音楽コンサート等に、県外から人を呼び込むに際しては、ＪＲ四国を利用してもらって松山入りし、歩いてすぐに会場に行けるという利便性は大きなメリットであり、それが交流人口の拡大、外貨の獲得につながる。大規模な集客が見込めるイベントならば、場合によっては、ＪＲの臨時増便で多くの交流人口の流れを生むことも可能になる。

全国的に見ても、多くのアリーナ施設の場合、地域の主要な交通結節点からは離れてい

て、バスや自動車等による移動が必要である。この点、松山市の場合は、鉄道のみで「ワンストップ」で移動、到着できるという利便性は極めて大きいと言えるだろう。

●松山市の現在の基本構想との整合性

前述したとおり、「松山駅周辺 車両基地跡地利用に関する基本構想」においては、求められる基本機能として、①文化創造②活動支援③賑わい交流④交通アクセス⑤防災の5つを挙げている。また、これらの機能を果たすためのメインの交流スペースとしては、ホールと広場を想定している。しかし、ホールや広場をアリーナに置き換えても、松山市が想定している機能を損ない、整備の目的を逸脱するとは考えられない。

例えば、市民が多様な文化や知識を楽しめる機能については、Bリーグ等のプロスポーツや市民レベルのアマチュアスポーツの「スポーツ文化」はもちろん、多目的にアリーナを活用することで、様々な文化活動に触れたり、楽しんだりができる。

また、市民や市民団体による活動支援だが、これもアリーナの「自由設計性」を活かし、制約を受けることなく、様々な活動の支援、活性化につなげることが可能である。

賑わい交流も全く問題ない。アリーナでは、様々なイベントが開催可能なため、主に市民向け、或いは、域外からも交流人口を呼び込むなど、いろいろな形で賑わいを生む交流の場となる。

交通アクセスについては、どのような施設の整備であっても共通することであり、防災についてもアリーナの利点は大きい。岡山市が計画しているアリーナにおいても、防災機能について、「災害時において、一時避難施設（収容人数 2,000 人程度）として活用するだけでなく、災害時の物資搬出入の広域拠点として機能するなど、地域の防災機能の強化を図る」としている。

松山市で整備する場合も、アリーナは風雨等からも住民を守る屋内の一時避難施設、物資搬出入の広域拠点となることは岡山市の場合と同じであるし、アリーナに災害時の緊急支援物資等を備蓄することもできる。

また、公共交通の結節点に隣接するという地の利は、鉄道で移動してきた通勤・通学等の乗客を迅速に避難させることにもつながる。

以上、松山市の基本構想と比べるならば、機能として重視する「文化」における「スポーツ」の位置づけに多少の違いがあるものの、アリーナが極めて多目的に活用可能という点では、大きな齟齬はない。その他についても、方向性や実際の機能はほぼ変わらず、整合性は取れていると考える。

よって、愛媛経済同友会スポーツ振興員会では、車両基地跡地の活用として、多目的に利用できるアリーナの整備を提言したい。

愛媛経済同友会 スポーツ振興委員会

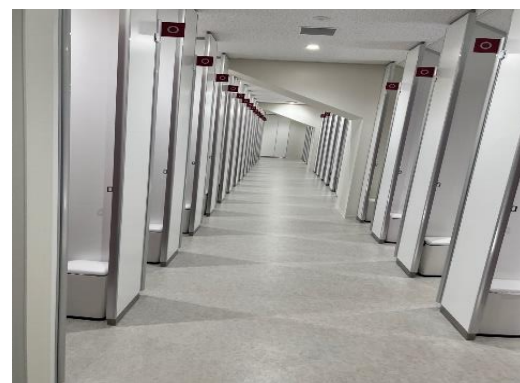
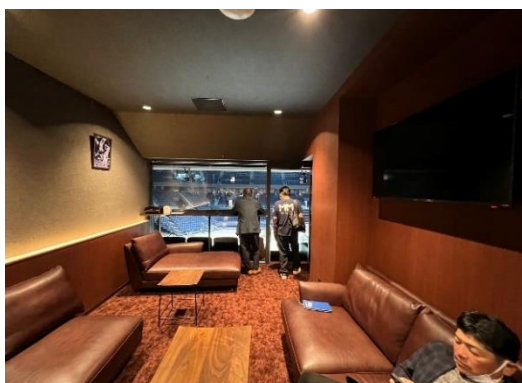
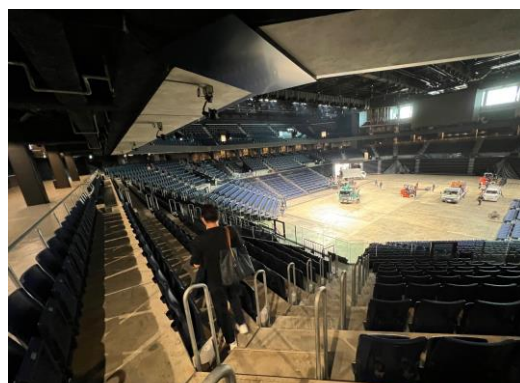
●沖縄アリーナの視察

2022 年 11 月 11 日（沖縄県沖縄市）

沖縄アリーナは、2021 年春に沖縄市諸見里のコザ運動公園に整備された多目的アリーナで、沖縄市がホームタウンの B リーグチーム「琉球ゴールデンキングス」の公式戦等のプロスポーツ興行、音楽コンサート、展示会など、幅広い用途で利用されている（収容規模は 1 万人）。

施設所有者は沖縄市だが、設計段階より関わった沖縄アリーナが運営管理を行っている。年間の施設稼働率は 30%程度だが、採算は取れている。

アリーナには、多目的な利用を可能とするため、V I P ルームやパーティールーム等も整備されている。また、ショッピング等を楽しながら試合観戦が楽しめるように、アリーナを映し出すモニターが随所に設置されているほか、女性トイレを一般施設より多数設置するなど、利用者に配慮した創意工夫がなされている。



●B リーグチェアマンによる講演会

2023 年 3 月 23 日（A N A クラウンプラザホテル松山）

エンターテインメントスポーツと地域経済の在り方について学ぶため、公益社団法人ジャ

パン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（Bリーグ）の島田慎二理事長（チェアマン）を招き、「Bリーグの将来構想と夢のアリーナがもたらす地域経済活性化」をテーマに講演いただく。

島田チェアマンによると、Bリーグのレギュレーションが 2026 年度から変更になり、ランク保持には、ホーム施設のアリーナ観客収容人数やチームの興行収入によるランク分けが行われる。これまで以上に地域を巻き込んだチームづくり、アリーナを基軸とした地域創生を進めるという新たな構想に基づく取組みとなっている。

また、島田チェアマンのアリーナについての考え方は、施設が有する多様性やバスケットボールの流動人口獲得の柱になるだけではなく、施設立地地域の税收アップなど、様々な経済波及効果をもたらすことが重要とのこと。例えば、沖縄アリーナの活用では、



アリーナ施設を中心とした観光ツアーの組成、バスケットボールに興味がない人でも見に行きたくなるようなエンターテインメントイベントとしての演出などが成功している。今後、ホテルや商店街施設等の付加価値の整備も検討されていて、地域創生の切り札になると大いに期待されている。スポーツコンテンツと観光コンテンツをミックスし、相乗効果を生むような

「スポーツツーリズム」の確立を実現することが、プロスポーツの存在意義であり、地域発展に結びつけていかなければならない。

●群馬県のアリーナ施設の視察

2024 年 2 月 7 日（群馬県太田市）

この視察では、アリーナ「OPEN HOUSE ARENA OTA」を見学するとともに、太田市の清水聖義市長を表敬訪問し、㈱群馬プロバスケットボールコミッションの阿久澤毅社長による講演、Bリーグの群馬グレインサンダースと仙台89エイティーナイナーズによる試合観戦も実施した。

群馬県のアリーナは、清水市長のスポーツを通じた地域活性化の起爆剤にしたいとの思いから整備された。2023 年 4 月のオープンで、視察時はまだ半年もたっていなかったが、既にホームゲームは満席状態とのこと。

試合当日は、キッチンカーが多数出店してにぎわっており、会場内は、まるでコンサートのように、照明や音響、ドライアイスなどで演出され、ファンは一体感に包まれ、大変な盛り上がりだった。

このアリーナの整備に当たっては、企業版ふるさと納税など、民間活力が活用されてお

り、運営においても、広告料やVIPシート契約、VIPルーム契約、Bリーグによる年間契約など、多様な収入確保の工夫が凝らされている。また、バスケットボールの試合だけではなく、音楽コンサートや他のスポーツの開催、各種イベントの開催など、施設の稼働率アップに努めている。

太田市は松山市の半分以下、22 万人都市だが、アリーナそのものの年間を通じた採算性は取れそうとのことである。例えば人口規模は小さくなくても、創意工夫、運営努力次第で、アリーナは行政のお荷物にはならず、地域活性化に貢献することを物語っている。清水市長も、「一度来場したらとりこになる」と話しており、日常を忘れさせてくれるようなエンターテイメントイベントとして確立されている。太田市では今後も、アリーナを中心とした賑わい創出、交流人口の拡大に努め、さらなる地域活性化につなげていく方針である。

<群馬県 OPEN HOUSE ARENA OTA 施設概要>

施設のコンセプト

スポーツ活動、健康づくりを「する」場を提供できる市民スポーツ施設

市民の多様な活動をサポートするアリーナ

ユニバーサルデザインに配慮し、だれでも利用しやすい施設

避難所拠点として、大規模災害時の避難や避難所の支援に対応できる施設

災害時に 1000 人程度の避難者を受け入れることのできる施設

大地震に対して十分な構造強度を有する構造

インフラ遮断時にも 3 日間程度施設機能を維持できる設備

地元チームのホームアリーナとして、「持続的な地域活性化の核」となる愛される施設

先端の映像、音響設備と多彩な演出に対応可能なアリーナ

来場者にワンランク上のホスピタリティを提供できる観客席

賑わいを生む連携された エントランス 広場 サブアリーナ

・建設場所

太田市飯塚町 1059 番 1 地内（運動公園旧サブグラウンド）

・構造規模

鉄筋コンクリート造（RC 造）一部鉄骨造（S 造）および鉄筋鉄骨コンクリート造

地上 3 階建 X 方向、Y 方向とも耐震壁付きラーメン構造、メインアリーナ屋根は

平弦トラスとした鉄骨造、サブアリーナ屋根は単材（H 形鋼）とした鉄骨造

・建築面積

7,327.23 平方メートル

・延床面積

10,611.61 平方メートル

・総事業費

8,250,000 千円（地方創生拠点整備交付金（国）、市町村競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金（県）、企業版ふるさと納税を活用）



岡山市のアリーナ整備基本計画

中四国のアリーナ整備に関する最も直近の動向としては、岡山市のアリーナ整備構想がある。岡山市は、Vリーグの岡山シーガルズとBリーグのトライフープ岡山、Tリーグ

(卓球)の岡山リベッツ、Jリーグのファジアーノ岡山という4つのトップチームのホームタウンとなっており、地方都市において、こうした多くの競技のトップチームを有するのは珍しいことである。

ただし、アリーナ競技においては、試合開催に適した市内会場が岡山県総合グラウンド体育館（ジップアリーナ）しかなく、多くの利用がこのアリーナに集中するため、トップチームの試合はもちろん、アマチュアスポーツ等の利用も、会場の確保に苦慮していた。

また、Vリーグ及びBリーグのトップチームが、上位リーグで活動するために必要なホームアリーナの基準の見直しにより、5,000席以上の客席やラウンジ等の設置、ホームアリーナでの試合開催割合などの新たな要件が求められることになった。しかし、この設備要件を満たすアリーナは市内にはなく、新アリーナの整備が必要だった。

こうした中、2021年12月、岡山県経済団体連絡協議会や岡山商工会議所などから、新アリーナの建設及び公設民営によるアリーナ整備の提言がなされた。これを受けて岡山市は2022年度、「多目的屋内施設（アリーナ）に関する基礎調査」を実施した。そして、2023年11月には、「北長瀬みずほ住座跡地を候補地とする岡山市多目的屋内施設整備に関する基本計画」が策定され、事業が具体的に動きはじめた。



●多目的屋内施設（アリーナ）整備基本計画

<整備の目的>

トップチームやアマチュアスポーツ、市民スポーツの利用拡大に寄与するだけでなく、第2期岡山市スポーツ基本計画の基本方針に掲げる「スポーツを通じたまちの活性化と一体感の醸成」の実現に向けて、以下の5つの効果が期待される。

- ① シビックプライドの醸成（「スポーツで盛り上がる日常」を提供し、トップチームがシンボリックな存在となることを通して、地域への愛着と誇りの醸成が期待される）
- ② 宿泊を伴う交流人口の拡大（プロスポーツをはじめとした興行・イベントが開催されることにより、中四国地域における交通結節点としての立地特性を活かし、市内・県内での宿泊を伴う交流人口の拡大が期待される）

- ③ 北長瀬未来ふれあい総合公園周辺のまちの活力・賑わいの創出（公共交通の利便性がよく、周辺の商業施設や公園と連携した官民連携事業の展開によって、まちの活力・賑わいを創出することが期待される）
- ④ 全国大会や中四国大会の誘致（会場の選択肢が増えることで、ジップアリーナや他の体育施設での全国大会や中四国大会誘致の可能性が高まり、地域経済への波及効果が期待される）
- ⑤ 防災機能の強化（同総合公園が「岡山市地域防災計画」上の広域避難場所に指定されていることから、隣接する新アリーナと連携・機能分担することで、さらなる防災機能の強化が期待される）

<利用方針>

- ① トップチームのホームゲーム利用（各トップチームが、リーグ参入や昇格の機会を喪失することがないように、リーグの参入条件を満たす施設とする。また、快適な環境で魅力的な試合を提供するため、プロスポーツの利用に対応した「魅せる」アリーナとしての整備を行う）
- ② 各種イベントや展示会、コンベンション、コンサート利用（各種イベントや展示会、コンベンション、コンサート等の利用に対応可能な施設とする。また、様々な目的の利用の積極的な誘致を行うことで、年間を通して市民、県民をはじめ、広域から人々を惹きつけ、まちの活力を生み出す）
- ③ 地域を支える防災機能（災害時、収容人数 2,000 人程度の一時避難施設として活用するだけでなく、災害時の物資搬出入の広域拠点として機能するなど、地域の防災機能の強化を図る）

<導入機能>

他の都市事例や各トップチームが参入を目指す新たな V・B・T リーグの上位クラスのレギュレーションの条件基準、ニーズ調査を踏まえた機能とする。

- ◆協議機能＝メインアリーナ（2,600 m²）、サブアリーナ（1,000 m²）、更衣室、倉庫など
- ◆観客機能＝客席（5,000 席以上）、トイレ、飲食物等の販売スペース、授乳室、エントランスホール、コンコースなど
- ◆VIP 機能＝VIP 室、ラウンジなど
- ◆運営機能＝運営管理室、控室、医務室など
- ◆メディア機能＝記者会見室、メディアルームなど
- ◆施設管理機能＝管理事務所、機械室など
- ◆その他機能＝通路、階段など

J R 車両基地跡地利用計画図

松山駅西南北線 W=30m (4車線)

160552

搬入口

道路境界線

搬出口

道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線

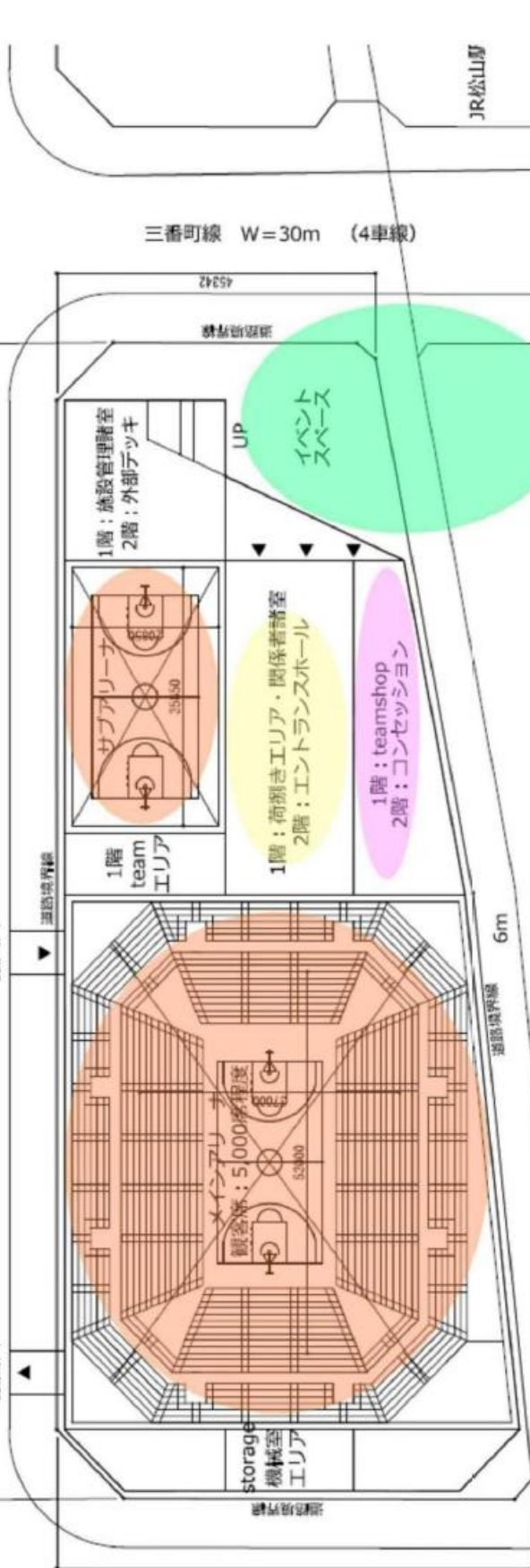
道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線

道路境界線



三番可線 W=30m (4車線)

JR松山駅

← 大洲・宇和島

AC Bright Lab

■敷地概要

用途地域：商業地域、建築率：90%、容積率：500%

敷地面積：9,250㎡ (基本構想より)

建築面積：8,105㎡ (建築率：87% < 90%...OK)

容積MAX：46,250㎡...5,000人規模であれば、事例規模より計画は可能

駐車場：荷捌き・身障者用駐車のみ ※駐車施設を敷地内に確保することは難しい

スポーツ振興委員会

代表幹事	野本 政孝	(株)サンメディカル	代表取締役会長
〃	山口 普	(株)フジ	代表取締役社長
委員長	正岡 尚起	上田消防建設(株)松山店	代表取締役社長
副委員長	池田 啓吾	(株)ビルド商会	代表取締役社長
〃	奥村 裕紀	(有)花泉・(株)愛媛フラワー	代表取締役
〃	河原 卓	(有)カワハラ	代表取締役
〃	松浦 吉隆	(株)美工社	代表取締役社長
委員	相原 誠一	(株)スズキ販売愛媛	代表取締役
〃	青野 淳一	(株)今治冠婚葬祭互助会	専務取締役
〃	伊賀上 竜也	(株)パドス	代表取締役
〃	井川 直樹	愛媛パッケージ(株)	代表取締役
〃	石崎 正史	日本ガスライン(株)	会長
〃	石橋 和典	(株)成武建設	代表取締役
〃	稲見 政隆	(株)イナミコーポレーション	代表取締役
〃	今城 靖浩	松山容器(株)	代表取締役社長
〃	井本 雅之	(株)ありがとうサービス	代表取締役社長兼会長
〃	植木 徳和	(株)イシアン	代表取締役
〃	小倉 早織	(株)小倉葬祭社	代表取締役社長
〃	尾山 陽一郎	(株)アートアイデア	取締役社長室長
〃	門屋 光彦	(株)門屋組	代表取締役社長
〃	金子 文理	四国メディコム(株)	取締役会長
〃	金子 泰久	(株)カネコ	代表取締役社長
〃	加納 清恵	(株)みずほ工業	会長
〃	亀岡 善明	(株)秀光	代表取締役
〃	河原 成紀	(学)河原学園	理事長
〃	河村 洋右	(株)アスティス	取締役執行役員 コーポレート本部長兼経営企画部長
〃	菊川 哲男	遊食酒家 笑楽	代表
〃	菊池 武志	フモト建設(株)	代表取締役
〃	菊池 泰行	堀田建設(株)	代表取締役社長
〃	窪田 英治	(株)四国シキシマパン	代表取締役社長
〃	栗田 敬	クレスコ増喜不動産(株)	代表取締役
〃	黒田 尚樹	(株)ビケン	代表取締役
〃	源代 茂	(有)プラスター技研	代表取締役
〃	小池 正照	(株)カネシロ	代表取締役

委員	小泉 啓典	東昇技建(株)	代表取締役
"	近藤 譲治	コムシス(株)	代表取締役
"	佐伯 教義	(株)ミツワ都市開発	取締役会長
"	坂和 寿忠	(株)サカワ	代表取締役社長
"	佐古 英樹	(株)杉野工務店	代表取締役
"	佐々木 隆司	八松硝子建材(株)	代表取締役社長
"	篠原 正人	杉原楽器店	代表
"	島原 茂	(有)島原保険	代表取締役
"	清水 啓介	南海放送(株)	常勤監査役
"	上甲 盛一	(株)S'chatz Japan	代表取締役会長
"	新谷 隆則	河之北開発(株)	支配人
"	鈴木 明芳	(有)インテリア アッピーハウス	代表取締役社長
"	清家 剛	愛媛建物(株)	代表取締役
"	染谷 健二	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券(株) 高松支店	副支店長
"	多賀 一晃	(株)タガ	代表取締役
"	高橋 敦	内海曳船(株)	顧問
"	高橋 朋子	(株)高橋建築事務所	代表取締役社長
"	武智 秀樹	(株)親和技術コンサルタント	代表取締役社長
"	武智 正晴	(株)ベルモニー	代表取締役
"	田中 典	(株)ケイ・アール総合企画	代表取締役
"	谷口 裕子	(株)円クリエーション	代表取締役
"	玉置 竜	ネットヨタ愛媛(株)	代表取締役社長
"	田室 和紀	愛媛県民球団(株)	取締役 球団統轄マネージャー
"	丹下 靖憲	(株)eウェーブ	代表取締役
"	友近 美由起	伸和環境(株)	代表取締役
"	永瀬 勝大郎	(株)ナガセ	代表取締役
"	中津 格子	第一生命保険(株)	オフィス長
"	永野 能弘	四国建販(株)	代表取締役
"	新野 和幸	(株)ハッピーファーマシー	代表取締役社長
"	西田 弘二	(株)西田興産	代表取締役
"	沼崎 貴則	第一生命保険(株)	松山支社長
"	野中 信辰	(有)野中石材工業	代表取締役社長
"	昇 周作	ベストデリカ(有)	会長
"	乗松 宏吉	(株)もみじ建築	代表取締役
"	平松 拓也	レクサス松山城北(株)	代表取締役社長
"	藤井 征治	愛媛海運(株)	取締役相談役

委員	藤岡 忠	(株)イープレス	代表取締役
〃	藤澤 正治	フジサワテクノス(株)	代表取締役
〃	古川 隆志	スカイ建設工業(株)	代表取締役社長
〃	槇野 洋介	(有)マキノ海産	代表取締役社長
〃	増田 和俊	ツウテック(株)	代表取締役
〃	眞鍋 友規	(株)シンク	代表取締役
〃	丸山 武	(有)マル	代表取締役
〃	丸山 博史	明治安田生命保険相互会社	松山支社長
〃	三浦 秀之	(株)エムジーエム不動産パートナー	代表取締役
〃	水口 洋子	(有)コンシェルジュ	代表取締役
〃	宮下 芳	(有)アルファ・プラス	代表取締役
〃	明後 健一	松山冷凍(株)	代表取締役
〃	村上 忠	(株)東洋印刷	代表取締役社長
〃	村上 寛	椿アルミ建材(有)	代表取締役
〃	村上 巳紀男	志嶋汽船(株)	代表取締役
〃	森 浩輔	(株)ガリレオコーポレーション	代表取締役社長
〃	森実 秀郎	森実機工(株)	代表取締役
〃	盛重 泰輔	(株)松山建装社	代表取締役社長
〃	薬師神 権祐	星企画(株)	代表取締役社長
〃	矢野 尚良	(株)Jリスクマネージメント	松山支社長
〃	山内 昭	(有)インテリア彩	代表
〃	山路 義則	キスケ(株)	代表取締役社長
〃	山本 修平	(有)ミッシェル・グラムール	代表取締役
〃	横江 拓也	みずほ証券(株)松山支店	支店長
〃	和田 陽吾	(有)カズケン	代表取締役
〃	渡辺 俊	(株)渡辺建設	代表取締役
〃	渡邊 政富	渡邊建設(株)	代表取締役
〃	渡部 裕司	(株)ミック	代表取締役社長

